③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
情報システムの整備・ホームページの運用（情02）	企画情報部	57
専門的アーカイヴの拡充（資料閲覧室運営）（情03）	企画情報部	59
無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	60
国際資料室の整備（セ08）	文化遺産国際協力センター	61
文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（セ07）	文化遺産国際協力センター	62
所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター･概要･年報）（情05）	企画情報部	63
調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）（美06）	企画情報部	64

情報システムの整備・ホームページの運用（③情02-07-2/5）

目　　的

文化財関係の情報を収集し、積極的に発信するために、ネットワーク環境におけるセキュリティの強化及び高速化を進めるなど、情報基盤の整備・拡充を図る。さらに研究所の研究・業務などの広報活動の一環として、ホームページの運用を充実させる。

成　　果

１．情報システムの整備

⑴　システム管理

所内におけるシステムの運用については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理を行った。またLAN委員会の協議を経て、中長期的な更新計画を策定した。とくに平成19年度は研究活動及び日常業務が遅滞なく円滑に遂行されるように、スパムメール対策を講じた。

⑵　ネットワーク環境の整備

現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるよう、下記の通り、ネットワーク環境を整備した。

・ファイアウォールの更新
・スパム対策システムサーバの導入
・ルータの更新

⑶　情報セキュリティ

東京文化財研究所ネットワークシステム管理規則、東京文化財研究所広報委員会規則、東京文化財研究所LAN委員会細則を整備し、所内の情報セキュリティの強化を図った。また情報セキュリティ・ポリシーおよび運用手順については引き続き情報を収集した。

２．ホームページの運用

東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成19年度は、『活動報告』（日本語版・英語版）ページの新設、検索エンジンの導入、更新回数の増加など、ホームページの充実を図った。

平成19年度のホームページアクセス件数は1,526,409件に達し、平成18年度に比べ、約17万件増加した。

年間ホームページアクセス件数の推移

平成19年度　1,526,409件
平成18年度　1,355,306件
平成17年度　　861,486件
平成16年度　　726,381件

月別のホームページアクセス件数

・４月　129,142件	・５月　134,735件	・６月　194,891件	・７月　223,741件
・８月　166,023件	・９月　109,512件	・10月　106,777件	・11月　99,475件
・12月　89,799件	・１月　96,699件	・２月　87,939件	・３月　87,676件

③資料作成・公開 Area13,20

平成19年度の更新履歴

更　新　内　容	日本語版	英語版
活動報告	10	8
『年報』『概要』『ニュース』『ダイジェスト』（『ニュース』英語版）の刊行	8	8
職員の募集	7	0
各種研究会の開催	6	1
黒田記念館とそれに関する展示	6	4
情報システム	5	1
公開講座などの催し	4	1
資料室の公開	2	2
研修の募集	2	1
文化財の保存修復に関する成果展示	2	1
連絡	2	1
研究成果の刊行	1	0
合計	55	28

研究組織

○勝木言一郎、綿田稔、江村知子、中村明子（以上、企画情報部）、横山隆史（管理部LAN委員）、俵木悟（無形文化財部LAN委員）、吉田直人、加藤雅人（以上、保存修復科学センターLAN委員）、二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN委員）

活動報告2008年トピックスページ

専門的アーカイヴの拡充（資料閲覧室運営）（③情03-07-2/5）

目　　的

企画情報部では⑴受入した文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、⑵閲覧室で月・水・金の週３回一般利用者へ所蔵資料を提供、⑶データベースや検索システムの構築・運用を通常業務としている。過去五カ年で定まった文化財関連資料の公開機関としての周知をふまえ、次期五カ年では提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの拡充を図る。また、上記アーカイブのための資料収集及び作成には画像形成技術の開発が必要不可欠である。画像形成部門では、常に技術の進歩をみる写真機材及び設備の整備が必須であり、本プロジェクトでは継続的なこれらの更新を行うことによって、世界最先端の研究活動を支援することをも目的とする。

成　　果

⑴　資料閲覧室運営：従来どおり文化財に関する文字資料及び画像資料の収集、管理、公開、データベースの構築・運用を基本に、より充実した文化財に関するアーカイブの形成を試みた。アーカイブ拡充の一環として美術史家川上涇氏、久野健氏、田中一松氏の調査等の資料の寄贈を受け入れた。またデジタルコンテンツ作りでは、『美術研究』総目次のデータ化と、文化財年表作成の資料として『日本美術年鑑』（朝日新聞社）のデータ化を開始した。一方、利用頻度が高まるにつれ、劣化が進む資料類や機器類の保護対策として、資料については引き続きデジタル化をすすめ、また順次機器の更新を行った。また、国内外の関連機関との協力関係構築への取り組みとして他機関の資料収集・整理・公開システムを調査し、さらに有効なシステム構築のための協議を行った。

図書受入数：和漢書914件、洋書０件、展覧会図録・報告書等864件、雑誌1,488件

受入総数：3,266件

目録所在情報：目録所在情報の種類　35種、目録所在情報作成件数　32,484件

目録所在情報収録件数　648,759件、目録所在情報公開件数　528,039件

イントラネットで公開中の目録累計数　13種

資料閲覧室の利用状況：公開日総数　140日、利用者年間合計　1,120人　194人増（前年度との対比）

⑵　画像情報室：従来に引き続き、他部・センターあるいは他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。また、黒田清輝遺族から寄贈された資料写真のうち、第一次寄贈写真についてはデジタル化を完了し、風合いを再現した出力を試みてその成果を黒田記念館での特集展示「写された黒田清輝」で公開した。画像資料の作成・整理については、写真管理検索システムへの４×５カラーフィルムの登録、戦前の撮影調査票一覧のデータ化、写真原板検索システムの外部公開を開始した。昨年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルムについては文化遺産国際協力センターの協力を得て、画像のデジタル化に着手した。また、デジタルアーカイブで公開中の『紅白梅図屏風』の画像を冊子体で提供することを開始した。

撮影件数：フルカラー画像3,560件、特殊画像1,450件

平成19年度写真管理検索システム登録件数：5,950件（カラー４×５）

企画情報部にて作成・更新中の目録データベース（35種）

・所蔵和漢書データベース（2006年度まで）
・受入和漢書データベース（2007年度分）
・所蔵洋書データベース
・所蔵簡易図書データベース
・売立目録データベース
・所蔵美術館博物館収蔵目録データベース
・和雑誌誌名データベース
・所蔵洋雑誌誌名データベース

・所蔵中国雑誌誌名データベース
・所蔵和雑誌巻号データベース（2002年まで）
・所蔵和雑誌巻号データベース（2003年以降）
・所蔵中国雑誌巻号データベース
・所蔵地方公共団体刊行報告書データベース
・展覧会データベース（2002年まで）
・近現代作家名データベース
・写真原板データベース
・古美術文献目録データベース（明治～1965年）
・近現代美術文献目録データベース（1959～1990年）
・所蔵古美術展図録目次データベース（1989～2001年）
・所蔵近現代図録目次データベース（1948～1990年）
・古美術展覧会開催情報データベース（1944年以降）
・美術懇話会・開所記念展覧会出品目録データベース
・所蔵韓国雑誌誌名データベース
・所蔵洋雑誌巻号データベース（2005年まで）
・所蔵洋雑誌巻号データベース（2006年以降）
・所蔵韓国雑誌巻号データベース
・所蔵香取秀真資料関係データベース
・展覧会データベース（2003年以降）
・近現代展覧会開催情報データベース（1944年以降）
・キャビネット写真データベース
・東京文化財研究所年表データベース
・美術館博物館名データベース
・美術研究総目次データベース
・撮影調査票データベース
・物故記事データベース

研究資料検索システムにて提供中のデータベース　I→イントラネット　O→インターネット

・I／O美術関係図書データ
・I／O伝統芸能関係図書データ
・I／O保存修復関係図書データ
・I／O売立目録データ
・I／O展覧会カタログデータ
・I／O和雑誌データ
・I／O写真原板データ(2007.6外部公開開始)
・I古美術文献データ
・I近現代美術文献データ
・I／O『保存科学』所載文献データ(2007.5外部公開開始)
・I／O伝統芸能関係三雑誌所載文献データ
・I／O近現代美術展覧会開催情報データ
・I／O伝統楽器情報データ

研究組織

〇中野照男、山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-07-2/5）

目　　的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

概　　要

本年度は、これまでに蓄積されてきた資料に加え、平成17年度までに寄贈を受けたアナログテープの媒体転換を中心に実施した。とくに、新たに受入れが完了した資料に関しては、これまでの資料を補完する分野を重点的にデジタル化を進めた。同時に、デジタル化音声資料へのインデックス付与も行った。

研究組織

〇宮田繁幸、鎌倉惠子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、佐竹悦子、角美弥子、綿貫潤（以上、無形文化遺産部）

国際資料室の整備（③セ08-07-2/5）

本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、文化遺産国際協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

1　資料の収集とデータベース化

目　　的

文化財自体やその保存修復、機関・組織・法令などの保護制度、文化財の公開と活用、危機管理などの分野の書籍や報告書、会議録、地図など、文化財保護に関する資料や、文化財保存修復国際協力を行ううえで参考となる関連諸学に関する資料を収集する。資料の収集は本プロジェクトだけでなく、他のプロジェクトとも連携して行い、特にプロジェクトの対象とした地域については、現地語による資料も含めて重点的に収集を行う。

また、利用者の利便性の向上及び資料の適切な管理のため、収集資料のデータベース化を行う。

成　　果

今年度はインド、インドネシア、中国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍900点（和漢書273点、洋書627点）、雑誌590点の資料を収集し、データベース化した。また、関野克・元東京文化財研究所長旧蔵資料約300点を受け入れた。

2　『国際資料室蔵書目録』の作成

目　　的

今年度データベースに入力した図書および雑誌について、蔵書目録を作成する。

成　　果

2008（平成20）年３月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した900点（和漢書273点、洋書627点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌414種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。

文化財保護に関する法令について扱う図書

目録作成数　１件

・『国際資料室蔵書目録』

研究組織

〇二神葉子、清水真一、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（③セ07-07-2/5）

世界各地の文化財及びその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する。

また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。

1　情報の収集とデータベース化

目　　的

世界各地、特に現在文化遺産国際協力センターで対象としている地域の遺跡を中心にデータベースを作成する。名称、種類、年代、所在地などの基礎的な属性情報のほか、保存修復履歴やその際の国際協力の有無といった付帯的な情報、さらに法令や保存管理計画などの関連の文献、写真や実測図、地図、衛星画像など総合的に情報を収集する。

成　　果

平成13年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。

また、今年度は平成13年度に引き続き、本研究所所長などを務められ、日本の文化財保護行政に深く関わられた関野克氏旧蔵資料約300点を博物館明治村から受け入れ、整理・分類の上データベース化した。この成果は、「関野克資料目録　2」として印刷・出版した。

さらに、今年度はアフガニスタンについて、カーブルからバーミヤーンにかけての地域の衛星画像（CORONA、QuickbirdおよびALOS）を収集した。

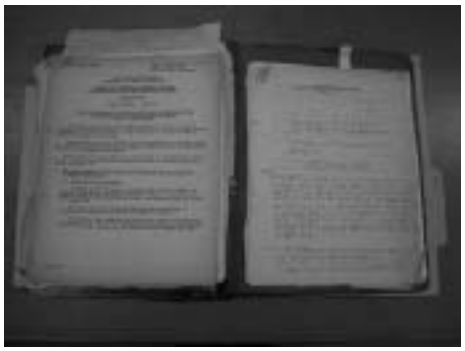
2　情報の発信

目　　的

文化財保存修復や国際協力事業に携わっている専門家を対象に、文化遺産国際協力センターが行っている調査研究などの事業に関する成果を公開する。

成　　果

文化遺産国際協力センターのウェブサイトでは、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することにより、研究成果を公開している。また、これまで和訳してきた世界各国の文化財保護に関連した法令の条文についてPDF化を行い、ウェブサイトに公開している。さらに、文化遺産国際協力センターが遺跡保存に関する現地機関との共同研究を行っているカンボジアの、文化財保護に関する法令を網羅的に収集、和訳し、「文化財保護関連法令集　カンボジア」として印刷・出版した。



関野克氏旧蔵資料：ハーグ条約に関する
ユネスコの会議資料（1957年）

研究組織

〇二神葉子、清水真一、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター･概要･年報）(③情05-07-2/5)

目　　的

『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でもPDFファイル形式で配信されている。

成　　果

1.『年報』2006年度版の刊行

2006年度が第2期中期計画第1年に当たることにあわせ、『年報』の装丁を改めた。その構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。編集に際しては、年報編集委員会の協議を通じ、編集方針を検討した。2007年度版は2008年5月31日に刊行された。

2.『概要』2007年度版の刊行

2007年度の組織改編に伴い、『概要』の構成を、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料に改めた。またその文章は従来通り、日英2カ国語併記とし、図版を多用した。編集に際しては、概要編集委員会の協議を通じ、編集方針を検討した。第1四半期に刊行された。

3.『東文研ニュース』の刊行

研究所の研究活動のうち速報性と公共性の高い記事、文化財の研究方法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、そして刊行物の案内などを四半期ごとに掲載した。編集に際しては、東文研ニュース編集委員会の協議を通じ、編集方針を検討した。

平成19年度の実績は下記の通りである。

№29　全16頁　2007年5月31日発行
№30　全16頁　2007年8月31日発行
№31　全16頁　2007年11月30日発行
№32　全20頁　2008年2月28日発行

また毎月、『活動報告』（Monthly Report）をそれぞれ日本語版・英語版のホームページ上に掲載するようにし、記事の速報性の確保につとめた。さらに『東文研ニュースダイジェスト』（『ニュース』英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

4.『所蔵目録』の刊行

蔵書目録データ17,412件の入力・校正を行い、『東京文化財研究所蔵書目録7　外国雑誌編』を刊行した。収録内容は、欧文439種、中文130種、韓文41種である。

研究組織

〇勝木言一郎、中野照男、山梨絵美子、塩谷純、田中淳、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）（③美06-07-2/5）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上２作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2001（平成13）年１月より、２階部分の改修工事が行われ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修、２室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約50点展示することができるようになった。また、旧美術研究所所長室も、公開のスペースに改め、美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者にホームページを見ていただくコーナーとして活用するようにした。2002（平成14）年９月からは、それまでの木曜日公開にくわえ土曜日も公開。平成15年度は７月から９月にかけて改修工事を行い、リフトやエレベーターの設置により施設のバリアフリー化をはかった。また同年度10月から記念館１階に黒田清輝作品の絵はがきや図録、額絵等、記念館のグッズを委託販売するコーナーを設けた。

今年度は記念館２階の一室を会場に、「特集展示　黒田清輝の素描作品」と題して、平成18年度に寄贈をうけた黒田清輝関係写真等から23点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2007年11月15日～08年５月17日）。

一般公開（無料）　毎週木・土曜日　午後１時～４時

特別公開　2007（平成19）年10月30日～11月４日、入場者数　13,707人（2007年４月５日～08年３月29日）

なお、黒田記念室のパンフレット（Ａ４サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

また2008年２月22日から３月15日まで、来館者にアンケートを実施した。1,502人の来館者に対して、598人から回答を得た（来館者数の39.８％）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」98.５％、「不満が残った」６人（0.4%）、その他であり、アンケート回答の98.５％が満足感を得たことになる。

・地方共催展

当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、1977（昭和52）年からの事業として「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝」展を年１回地方において行ってきた。平成19年度は下記のように開催した。

会場：平塚市美術館、会期：2007（平成19）年７月21日（土）～９月２日（日）

主催：東京文化財研究所、平塚市美術館、開催日数：38日、入場者：12,746人

陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡４通、日記５冊、参考出品２点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品）　その他油彩画１点、書簡１通を特別出品した。

図録：Ａ４版変形、182ページ

また会期中の2007（平成19）年７月28日（土）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た（入館者数279人に対して、回収率57.７％）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100％をしめた。

研究組織

〇田中淳（企画情報部）